タツノコアニメ
フェスティバル'78

開催にあたって

まんがのむし上映会も今回で四回目を迎えましたが、今回はタツノコプロの作品を集めてみました。

私達にとってタツノコプロの作品は、テレビ以外ではあまり接する機会がありませんが、今回竜の子プロダクションの御厚意により、上映会を開くことができ、こんなうれしいことはありません。

既成の概念にとらわれず、常に新しい試みを打ち出し、そして、私達に深い感銘を与え続けてきたタツノコプロの作品を、どうか心ゆくまで御観賞下さい。

第４回
まんがのむし
アニメーション上映会

タツノコアニメフェスティバル'78

1978.8.12.　AT NAGOYA・CHIKUSA・AUTHORITY・HALL

10：00　開　場

11：00　竜の子作品オープニング集

11：30　紅　三　四　郎

12：00　昼　休　み

12：30　九里一平氏特別講演

13：30　新造人間キャシャーン

14：00　破裏拳ポリマー

御注意
○プログラムは、事情により変更することがありますので、その節はご了承下さい。
○上映中の写真撮影及び録音は御遠慮下さい。

紅三四郎

放映
昭和44年4月2日～昭和44年9月24日

制作スタッフ
原作　吉田竜夫
企画　鳥海尽三
総監督　九里一平
音楽　越部信義
担当　本田保則
録音ディレクター　水本完
オムニバスプロモーション
制作　竜の子プロダクション
読売広告社
フジテレビ

制作意図
竜の子プロダクションのみが企画し、制作し得て世の絶讃を浴びた第二作「マッハ　ゴーゴーゴー」に次ぐ、本格的リアルタッチの熱血アクション・アニメーション作品第二弾として制作する。

企画意図
いつの世にも英雄は子供たちの夢であり、憧れである。一時的な刺戟と、およそ非現実的な主題のテレビ作品が氾濫している今日、敢えて気概のあった昔の英雄を偲び、現代っ子の眠れる魂をゆさぶる熱血アクション・ドラマのアニメーション化「紅三四郎」を企画した。

制作に当って
「紅三四郎」は、決して固苦しいストーリーにとらわれず、あくまでもマンガアニメーションのリアル化としての可能表現に徹したい。

かつて、我々が少年文庫や立川文庫に求めた夢と希望、心躍る冒険、アクションを追求したい。　**（以上、企画書より）**

サブタイトルリスト

1	紅の風雲児	14	殺し屋オリンピック
2	摩天楼の片目	15	決死の復讐犬
3	猫魔族の挑戦	16	地獄の三四郎
4	燃ゆる大平原	17	片目の鬼将軍
5	荒野の暴れん坊	18	墓場をあばけ
6	必殺！紅十字星	19	裏切りの報酬
7	海の虎・ハリマオ	20	片目の白虎(前編)
8	魔の超人マシン	21	片目の白虎(後編)
9	白銀の対決	22	必殺マグマ流
10	幻の独眼帝王	23	三四郎絶体絶命
11	キリマンジャロの戦士	24	極意　天地崩し
12	夕陽の決闘	25	猿人殺法
13	紅脱出作戦	26	秘剣　美少女

内　容

港町にある一道場の熱血少年が、かつては講道館四天王の一人と恐れられていた父の無残な敗死を契機として、巷の嘲笑と孤独と斗いながらも、父を倒した謎の片眼の男を求めて、世界の果てまでも追って行く。

その少年こそ、本編の主人公　紅三四郎である。

真紅の柔道衣をまとった　紅三四郎の行くところ、嵐を呼び、地を震わしての凄絶なアクションが展開する。

新流儀紅流は、父　紅正五郎が開祖である。

紅流は従来の柔道の型を超越した流儀で、相手、武器を問わない。柔道は勿論、剣道、フェンシング、空手、棒術、レスリング、ボクシング、チベット拳法、果ては早射ちのガンマンであろうと、これと相対して斗うのだ。そこに紅流の意義がある。

紅三四郎は、父の意志を継ぎ、紅流の新手を編出しながら、父を倒した謎の流儀の男を探し求めて世界をさまよう。

作品「紅　三四郎」は、紅　三四郎の偉大な成長記録であり、現代っ子は紅三四郎の負けても起ち、叩き打ちのめされて怯まず、不適の笑みを浮かべて敢然と目的に向かって突進する姿に、勇気を覚え、感動するに違いない。

紅　三四郎よ、何処へ行く……。

(以上　企画書より)

新造人間　キャシャーン

放　映
昭和48年10月２日 ～ 昭和49年６月25日

制作スタッフ

原作　吉田竜夫　竜の子プロ企画室
企画　鳥海尽三
総監督　笹川ひろし
音楽　菊池俊輔
文芸　小山高男
作画監督　林政行　川端宏　井口忠一
美術監督　中村光毅
背景　アップルズ
　プロダクションわーと
キャラクターデザイン　吉田竜夫
　天野嘉孝
メカニックデザイン　大河原邦男
　中村光毅
美術設定　多田喜久子　野々宮恒人
ＳＦ考証　小隅黎
効果　イシダ・サウンドプロ
音響　オムニバス・プロ（鳥海俊材）
録音　読広スタジオ　新坂スタジオ
プロデューサー　九里一平
制作　竜の子プロダクション

サブタイトルリスト

1　不死身の挑戦者
2　月光に勝利をかけろ
3　廃墟の中に明日を呼べ
4　ＭＦ銃に怒りをこめろ
5　戦いの灯を消すな
6　疾風フレンダー
7　英雄キケロへの誓い
8　野獣ロボが吠える
9　戦火に響け協奏曲
10　死の砂漠に命をかけろ
11　悪魔の巨像
12　鉄の悪党列車
13　裏切りロボット五号
14　キャシャーン無用の町
15　復讐に小犬は駆ける
16　スワニー・愛の翼
17　ロボット小守唄
18　巨像対アンドロ軍団
19　恐怖のピエロボット
20　死刑台のキャシャーン
21　ロボット・ハイジャック
22　脱走ロボット・ロメオ
23　ロボット工場大脱出！
24　バウンダー・ロボの挑戦
25　不死身のキャシャーン
26　キャシャーンの秘密
27　消えたＭＦ銃
28　怒りの騎馬隊
29　高熱ロボ・ネオタロス
30　ロボ退治ナンバー・ワン
31　新造人間を造る街
32　涙の電光パンチ
33　英雄キケロへの誓い（再放映）
34　戦火に響け協奏曲（再放映）
35　裏切りロボット五号（再放映）
36　スワニー危機一髪
37　キャシャーン対ロボットエース
38　地球最大の決戦

作品の狙い

科学の進歩発展に比例して、かけがえのない地球は公害に冒されつつある。

科学が頂点に達した時、同時に公害も頂点に達して地球は滅亡する。人類に幸福をもたらす科学が人類を滅亡させるという皮肉な運命が、必ず訪ずれるのである。

非情な科学と人間愛の問題が、現代の大きな課題であろう。

夢のないところに温かい人間性は望まれない。科学とメルヘン……この相反する二つの要素をドラマチックに絡ませて、現代の矛盾を追求するのが「新造人間キャシャーン」である。

科学、ＳＦもメルヘンも、その表現形態はアニメーションが最高効果をあげることは、すでに立証済みである。

だが、この両者を一つにしてアニメ化するところに、当作品の大きな特徴がある。

名付けて、ＳＦロマンアンクション。

メカの頂点であるロボットが次第に地球を支配してゆく。人類の危機を知って敢然と戦う科学者一家の肉親愛は、人間永遠のテーマとして、全人類の縮図として表現される。

地球の原子時代の滅亡から新しい地球に生まれ変る。

ザ・ビギニング……地球は、これより始まる。しかし、このようなことがあってはならないのだ。かけがえのない地球は一つ……護るのは、今生きているわれわれなのだ。

この重要性を、科学性を失わずに、美しいメルヘンとヒューマンなドラマを基礎として、冒険、アクション、涙でつづるアニメーションで描きたい。（以上　企画書より）

キャラクター設定の背景

この物語の時と場所、それは公害に汚染されつつある現代の地球である。

公害が進み、人間の生活環境が悪化していくことに機械であるロボットは無縁である。そうした状況の中で、人間たちはブライキングボスを団長とするロボットたちに征服支配されてゆく。

ロボットによる人類の征服をくい止めるためにはロボット（アンドロイド）によってロボット（アンドロイド）に対抗する、すなわち毒をもって毒を制するのである。

その役割を担って活躍するのが新造人間（ネオロイダー）キャシャーンである。

人間たちは自分たちへの支配を進めて来るロボット(アンドロイド)を憎み、敵意を抱く。だがその進撃に為す術もない。

東　鉄也から新造人間キャシャーンとなり、人間のために斗う彼の心情が、ドラマにロマンを注入する。

（以上　企画書より）

破裏拳　ポリマー

放　映
昭和49年10月４日　～　昭和50年３月28日
制作スタッフ
原作　吉田竜夫　竜の子プロ企画室
企画　鳥海尽三　酒井あきよし
総監督　鳥海永行
音楽　菊地俊輔
作画監督　二宮常雄
美術監督　中村光毅　野々宮恒男
美術設定　小林光芳　野々宮恒人
色彩設定　岡嶋国敏
キャラクターデザイン　吉田竜夫
天野嘉孝
メカニックデザイン　大河原邦男
中村光毅
背景　明石貞一　宮本清司
新井寅雄
特殊効果　朝沼清良
撮影　天平フィルム
編集　谷口肇　三木幸子
進行　小島幸雄　中野政則
効果　イシダ・サウンドプロ
録音　早稲田アバコスタジオ
録音ディレクター　本田保則
プロデューサー　佐藤光雄
衛藤公彦（萬年社）
宮崎慎一（ＮＥＴ）
アシスタントプロデューサー　鎌田正治
制作　竜の子プロダクション
協力　ＮＥＴ　萬年社

サブタイトルリスト

1	怪盗むささび党	14	ちゅうちゅう大作戦
2	殺人鬼紅さそり	15	稲妻怪人ピカデール
3	メカギャングむかで作戦	16	獣魚海賊ピーラカンス
4	とぐろ魔王ガラガラ蛇	17	ポリマー誕生の秘密
5	糸ぐま魔神土ぐも	18	マイナス50度の危機
6	メカ変化モグラ盗賊団	19	えん魔怪人ベロダッセ
7	わんわんカムキラー	20	怪盗鉄砲魚人
8	溶解マシンウツボーラ	21	コンコン七変化
9	猫魔団闇に踊る	22	復讐鬼ケラカブト
10	電魔団クラゲラー	23	海底魔人ウオトンビ
11	メカ獣団ホワイトウルフ	24	怪傑タコ仮面
12	鳥人トリメカマン	25	海亀将軍ベッコーダー
13	幻影おぼろ蝶	26	ポリマー最後の決戦

主題

規制画一化された現代社会は、子供たちを無力化させ、夢を破壊しています。

今、子供たちに必要なものは、独りで生きようとする夢の芽を与えることです。

与えられた一つの力を唯一の方法として活かし、独自の力で単身悪に挑戦しながら、逞しく生き抜く少年の姿を描くのです。独り生きようとする少年には、やがて、大きな夢が拓くのです。

（以上　企画書より）

企画の狙い

実写にしろアニメーションにしろ、映像である以上、視聴者を未知の世界に引きづり込まなければならない使命があります。

特にアクションものである以上、スリルとサスペンス、あるいは涙とペーソス等をもうまく計算に入れて、まるで手品師や魔術師の様に、視聴者を未知の世界に引き入れなければなりません。

本篇は、鎧（よろい）武士（たけし）と言う主人公の少年が、“ポリマー転身〟し、新拳法“必殺幻影破裏拳（げんえいはりけん）〟等の体術（ボディアクション）を駆使して、悪の組織を倒すまでを描きます。勿論、その内には奇想天外なアクション、スリルとサスペンス、ペーソス等が盛り込まれていきます。そして、難解でなく判りやすい内容を、しかもリアルな絵で描いてゆくのです。

（以上　企画書より）

特徴とセールスポイント

まず第一に、従来の“変身もの〟は主人公が変身した際に、別の生物体やメカニックに変わるのがほとんどでありましたが、本篇の主人公は普段の姿から、アクションしやすいスーツに変り、斗う機能を身に付け、空を飛ぶ時には、“ポリマー・ホーク〟、海に潜る時には“ポリマー・グランパス〟という鎧のコスチュームに“転身〟します。

第二に“転身〟した主人公は新拳法“必殺幻影破裏拳〟“天空蹴り〟“真空片手独楽（ごま）〟“反動三段蹴り〟等の体術を駆使して、世界各国に勢力を伸ばす悪を倒していくのです。

第三に主人公を取り巻く登場人物がかもし出す、笑いとペーソスがアクションによる緊張を柔らげていきます。

そして、体術やメカ・アクション等が、特撮もの以上の迫力を出して描かれるのです。この事は弊プロダクション制作による“新造人間キャシャーン〟“科学忍者隊・ガッチャマン〟で立証済みであります。

また、物語展開において、設定上、ものを喋べることができない老犬“男爵〟にナレーターの役割をもたせます。なんとも珍妙な犬語？をも駆使しながらナレーターを勤める“男爵〟が笑いをふりまくことでしょう。

更に、アニメ表現上、“破裏拳ポリマー〟の胸のマークを効果的に使用していきます。例えば、敵地に潜入した際、表現上、直ぐに全身像から登場させることなく、闇の中で胸のマークだけを強調してから登場というパターンを作っていくのです。それが、“破裏拳ポリマー〟の悪への挑戦のサインとなる訳です。その挑戦のサインはもう一つあります。敵地の壁や塀などに残す“破裏拳ポリマー〟の鉄拳マーク（胸のマークと同じ）がそれです。「“破裏拳ポリマー〟参上!!」の印でもあります。

（以上　企画書より）

ハートがはいっていなければ訴える力は弱いですよ

笹川ひろし氏、タツノコプロ作品の こころ を語る

人間ドラマが中心です

――「ガッチャマン」を劇場用化するキッカケというようなものから。

まあ、キッカケは前から色々あったんですが、どこの映画会社でやるかが一番の問題だったんですね。そういうビジネスの問題で折り合いがつかなかったので、結局今期になってしまったんです。ですから、決して「ヤマト」の二番煎じでも無いわけで、話は随分以前からあったんですよ。

――今後このような劇場用作品は？

劇場用に限らずスペシャルでもテレビでも良いと思うんです。竜の子独特のリアルなＳＦもの・アクションものを好きな方が高年齢層の方に沢山いらっしゃいますからね。高年齢と言っても中学から大学あたりですが。

だから、今後もこのような企画は進めて行こうと思います。

もうちょっとリアルに

――10月からの「ガッチャマンII」ですが、設定が若干変わるそうですね。

でもガッチャマンはガッチャマン、５人ですよ。

ただ、ジョーがどうなるかが＋αですね。これは今言わ無い方が良いでしょう。南部博士も５人も変わりませんからね。

――スタッフの方は以前に比べて。

スタッフも鳥海と相談したんですよ。彼はね、もう前の２年間で燃え尽くしちゃった、と言うんです。俺のやる事は、あれで終わりなんだと。じゃあ、どうしようか。それなら、若いディレクターが育ってきていますので、今回僕がヘッドとなって若い力で新しい「ガッチャマン」を創ってゆこう、ということになったんです。

――「ガッチャマンII」のアピールポイントは？

そうだなあ……、スペース的になるかな。怪獣が出て来たりとか変身とかのパターンは取り払いたいと思うんです。もうちょっとリアルにね。あまりバカバカしく無く……。

当時は小さい子が対象だったから、変身もしたし怪獣も出て来たし、それはそれで良いんだけれど……。ただ、後半は人間ドラマでおしてきたでしょ。それは今、もっと要求されているんですね。そういう層の人が増えてる以上、前よりリアリティに富んだふうにやりたいですね。

歴史を踏まえていないと

——フランスとの合作ですが、今年中に見られるでしょうか？

放送の期日がはっきりしませんのでなんとも申し上げられないのですが、出来上りは70%です。放送が早くなるように努力しているので、何れわかると思います。

現在シナリオや絵コンテはフランスから来ているのですが、内容が向こうの人には受けても日本の人に受けるかどうかは疑問ですね。両方うまくいか無いんですよ。国民性や小さい子供に対する考え方が違いますからね。ですから、日本でやる場合には日本の方にもわかるようにと考えているんです。

原始人の生活様式は絵だけ見ていてもわかるんですが、時代が下って中世になったり近代になったりすると、歴史を踏まえていないと何をやっているかわからなくなりますからね。

——リミテッドアニメを向こう（外国）に持って行くというようなことは？

それは通用するんじゃないですか。ただ技術的には良いんですが、内容的な難しさがあるんです。というは、生活様式等向こうで実際に何年か住んでみないとわから無いものがあるんですよ。

よくアメリカのアニメを見てると、やたらに芸者さんが出て来たりとか、日本庭園に鳥居が立ってたりしますね。ああいう事を我々もやりかねないんです。ですから、その点さえ解決すればＯＫなんですね。

間抜けな悪が好きです

——「ヤッターマン」の毎回のヴァリエーションを考えるのは？

かなり難しいですね。なにしろ数が多いですし、同じ事も２度やりたく無いですから、かなりしんどいです。それに週１回という制約もあるでしょ。後から思いついても、もう間に合わないんですね。

——悪役なんかがユニークですが。

あれも悪だけどかわいいところがあるでしょ。

僕は、ほんとに悪い人はいないんじゃないかと思うんです。何か主張があってやってるんでしょうからね。一つ殴るにしても、殴らなければならない理由があると思うんです。

それから、間抜けな悪の方が人間的で好きです。

——最近のＴＶアニメは、ドラマチックなものが多いですが。

ドラマチックの方が良いですね。

やっぱりハートが入っていないと訴える力が弱いですよ。

——今後の作品ですが、これまで通りアクションもの・ＳＦもの・ギャグもの、そして「テンプルちゃん」の様な作品ですか？

そうですね。うちはスポ根ものは苦手なんです。その他人形アニメや実写等の企画があり、いずれやろうと思っています。制作のペースは、週に３～４本で年間にスペシャル的なものをと考えています。

新人への期待は大きいですよ

——現在のＴＶアニメ界についてひと言。

数だけ多いですからね。それにどこの会社も個性が無くなってきてるでしょ。良いものが出来る訳無いですね。やっぱり若い人が参加してくれる以外に無いですよ。我々も忙しさに紛れて内部の養成を怠っていたんですが、現在動画で十数名の新人を養成しています。

——ファンクラブを結成されるそうですが。

うちは地理的にも今迄あまり積極的じゃ無かったんですね。竜の子近寄り難し、というようなイメージがあったようですが、決してそうでも無いんですよ。その辺が不器用でね。人員も要りますし、いいかげんな事をやるわけにもいかないので、今まで延び延びになっていたんです。でも全国の皆さんに、これほど支持を受けているのにこれじゃいけないだろう、ということで、去年の６月ごろから準備を進めていたんです。

——ゆくゆくはその中からスタッフを養成される訳ですか？

そうですね。ファンの方にすぐれた人が居れば、是非我々の作品に参加してもらいたいですね。期待は大きいですよ。ただ絵が上手いとか、好きだからとかで出来るというものでも無いですからね。ファンとして好きなのか、仕事として好きなのかをはっきりさせないと、人生の道を誤まりますよ。

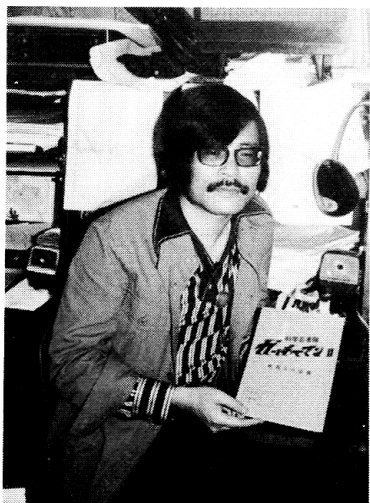
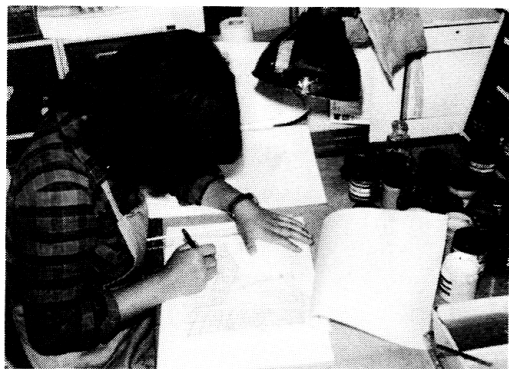
——ではこのへんで、どうも有難う御座居ました。

きき手　石野裕育

'78.5.30　スタジオにて

タツノコプロスタジオ見学記

西武国分寺線を鷹の台駅で降り、徒歩で10分ほどのところに竜の子プロダクションのスタジオがあります。まわりには小さな林や畑が沢山あり、スタジオの皆さんは閑静な中で仕事をして居られます。
今日は、数々の名作を生み出したこのスタジオを見学することにしましょう。

壁に輝くこの印、みんな知ってるタツノコマーク!!
玄関を入ると、棚の上には現像所から上って来たラッシュプリントがズラリ。左へ曲がれば編集室、真っ直ぐ行けば美術・特殊効果室、右へ曲がれば事務室があります。

原　征太郎氏の持っているのは、10月から始まる「科学忍者隊ガッチャマンII」のシナリオ。この横で笹川氏が絵コンテを描いて居られます。

2階にある演出部の隣の部屋。フランスとの合作「ピエール君歴史を行く」を描いて居られます。

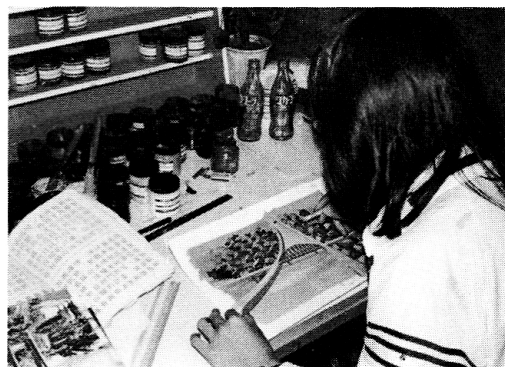
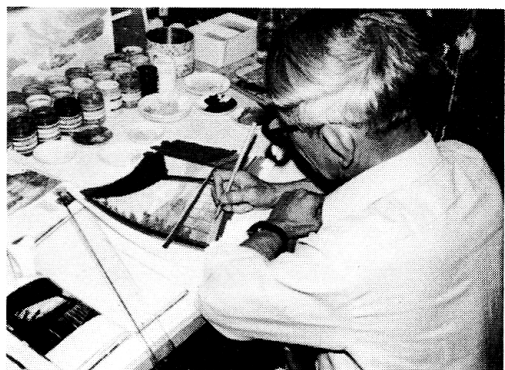
仕上検査の方。色の間違いを見付け出し、はみ出しをヘラで削り、塗りムラをうめ、柔らかい布でゴミ等を拭き取るのです。

特殊効果の方。ブラシをかけているのは、「ガッチャマンII」、登場が楽しみですね。

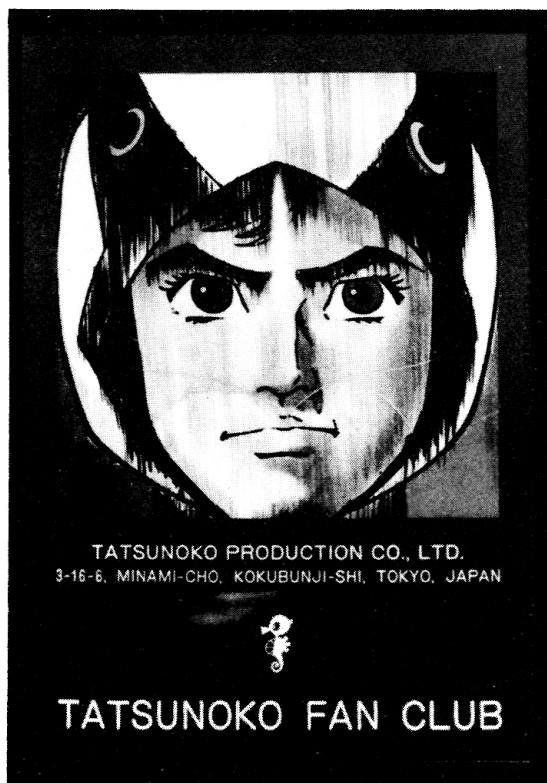
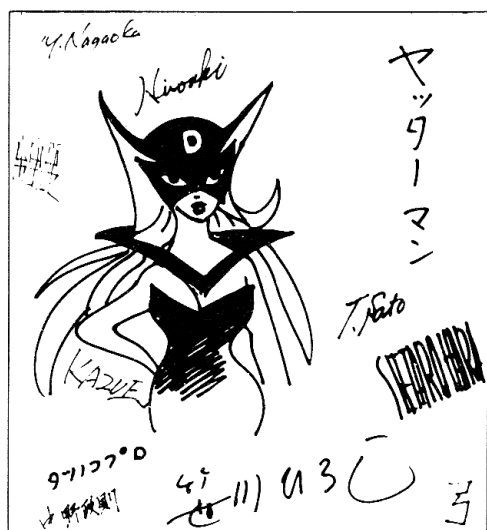
演出部の部屋の仕上と仕上検査の方。ここでは「ヤッターマン」「一発貫太くん」を担当しています。この部屋の天井からは、オカルトハンマーならぬトンカチ？がぶら下がって居りました。

この他にも編集室・撮影室・合作班の部屋・セル倉庫等があり、皆さん明るい部屋の中で黙々と仕事をして居られました。

スタジオの皆さん、今日はどうも有難う御座居ました。これからも良い作品をお願いします。

クレジットタイトルを描く方。真四角な字でスタッフの方の名前を描いてゆくのです。カメラを向けると、なぜかはにかんで背景で隠してしまいました。

美術の方。どんな背景でも写真の様に描くことが出来るのです。

タツノコプロ 16年のあゆみ

竜の子プロダクションの会社創立から現在までの作品制作のあゆみを、年代ごとにまとめてみました。

昭和37年 〈1962〉
会社創立（10月）
昭和40年 〈1965〉
5月 **「宇宙エース」**放映開始、フジテレビ系、白黒52本、後に「SPACE ACE」の題で輸出。
昭和42年 〈1967〉
4月 **「マッハGO！GO！GO！」**放映開始、フジテレビ系、カラー52本、後に「SPEED RACER（MACH, GO！GO！GO！）」の題で輸出。
10月 **「おらあグズラだど」**放映開始、フジテレビ系、白黒52本、後に「GUZURA」の題で輸出。
昭和43年 〈1968〉
10月 **「ドカチン」**放映開始、フジテレビ系、白黒26本、後に「DOKACHIN」の題で輸出。
昭和44年 〈1969〉
4月 **「紅三四郎」**放映開始、フジテレビ系、カラー26本、後に「JUDO BOY」の題で輸出。
10月 **「ハクション大魔王」**放映開始、フジテレビ系、カラー52本、後に「WONDERFUL GEINIE FAMILY（HAKKUSHON, THE SNEEZE MAGICIAN）」の題で輸出。
昭和45和 〈1970〉
4月 **「昆虫物語みなし子ハッチ」**放映開始、フジテレビ系、カラー91本、後に「HONEYBEE HUTCH」の題で輸出。
10月 **「いなかっぺ大将」**放映開始、フジテレビ系、カラー104本。
昭和46年 〈1971〉
1月 **「カバトット」**放映開始、フジテレビ系、カラー300本、後に「HIPPO AND THOMAS（KABATOT）」の題で輸出。
4月 アニメンタリー**「決断」**放映開始、日本テレビ系、カラー26本。
昭和47年 〈1972〉
1月 **「樫の木モック」**放映開始、フジテレビ系、カラー52本。
10月 **「科学忍者隊ガッチャマン」**放映開始、フジテレビ系、カラー105本、後に輸出され、「BATTLE OF THE PLANETS」の題で再編集される。
10月 **「かいけつタマゴン」**放映開始、フジテレビ系、カラー195本。
昭和48年 〈1973〉
1月 **「けろっ子デメタン」**放映開始、フジテレビ系、カラー39本。
10月 **「新造人間キャシャーン」**放映開始、フジテレビ系、カラー35本。
昭和49年 〈1974〉
4月 **「新みなし子ハッチ」**放映開始、毎日放送系、カラー26本。
10月 **「破裏拳ポリマー」**放映開始、NET系、カラー26本。
10月 **「てんとう虫の歌」**放映開始、フジテレビ系、カラー104本。
10月 **「ウリクペン救助隊」**放映開始、フジテレビ系、カラー。
昭和50年 〈1975〉
7月 **「宇宙の騎士テッカマン」**放映開始、NET系、カラー26本。
10月 **「タイムボカン」**放映開始、フジテレビ系、カラー104本。
昭和51年 〈1976〉
4月 **「ゴワッパー５ゴーダム」**放映開始、ABC系、カラー26本。
10月 **「ポールのミラクル大作戦」**放映開始、フジテレビ系、カラー50本。
昭和52年 〈1977〉
1月 **「ヤッターマン」**放映開始、フジテレビ系、カラー、放映中。
9月 **「一発貫太くん」**放映開始、フジテレビ系、カラー、放映中。
10月 **「風船少女テンプルちゃん」**放映開始、フジテレビ系、カラー。
10月 **「飛び出せ！マシーン飛竜」**放映開始、東京12ch系、カラー。
昭和53年 〈1978〉
6月 創立16周年記念ファンクラブ結成
7月 劇場用作品**「科学忍者隊ガッチャマン」**公開。

タツノコアニメフェスティバル'78パンフレット

発　　行	全日本マンガファン連合
	（会報「むしのこえ」特別号）
	名古屋市中央郵便局私書箱第244号
発 行 日	昭和53年8月12日
編　　集	石野裕育
協　　力	竜の子プロダクション

全日本マンガファン連合会報むしのこえ特別号
第4回まんがのむしアニメーション上映会タツノコアニメフェスティバル'78パンフレット